



# きずな

21世紀を  
人権の世紀に  
しよう!

発行元：四国中央市人権教育協議会 〒799-0497 四国中央市三島宮川4-6-55  
電話：0896-28-6028 E-mail:jinkyo@city.shikokuchuo.ehime.jp

## 人権ポスター

東保育園 年長児ぞうぐみのみなさんの作品



### 作者からのメッセージ

子どもたちは毎日笑顔！！保育園に来て大好きな友達と会い、一緒に遊べるのが嬉しくてたまりません。プール遊びでの出来事です。怖いけれど、水に顔がつけられるようになりたいと自分からチャレンジを始めたら、友達がちゃんとその勇気を見てくれていて「頑張れ！」と応援してくれました。ちょっと水に顔がつけられると自分のことのように「やった！」と一緒に喜んでくれて嬉しかったよね。自分も友達も認め合える関係が育ってくれています。コロナ前のように密とはいきませんが、想像の世界ならみんなと一緒に海水浴だってできちゃう。虹色の魚と泳げて「気持ちいい！！」子どもの柔軟で豊かな心に負けないよう、感染防止に努めながら今できることを大事に日々過ごしたいです。みんな今日も一緒に遊ぼうね！！

### 今月の 主な記事

- 1ページ 人権ポスター
- 2～3ページ ～人権についての市民意識調査から～
- 4ページ 人権作文・編集室から

## 人権作文

### いつも公正、公平に

川之江小学校 五年 石川 ころめ  
(現在六年)

わたしは、学年が上がるにつれて、友達への関わり方が変わってきたように思います。それはわたしだけではなく、周りの友達にも同じような友達がいられるように感じています。

わたしは低学年のころに比べて、友達についてい悪口を言ってしまうことが増えました。また、家でも人によって態度を変えてしまうことがあります。こわい父に注意されても何も言い返さないけれど、母や姉だと反抗的な態度をとってしまうことがあります。弟にはきつく当たってしまうこともあります。人の悪口を言わない、人によって態度を変えないわたしは、どこかにいってしまっていました。

五年生の参観日。その日は道德の授業でした。お話の題名は「変わっていくほくの心」でした。その主人公は、わたしと似ていて、人によって態度を変えてしまう子でした。わたしはこのお話を読んでみると、とてもいやな気持ちになりました。その主人公は、自分がいけないことをしていることに気が付き、相手の立場になって、相手の気持ちを考えていました。そして、自分がやったことを反省し、「自分の心を変えよう。人によって態度を変えず、みんなと同じ態度をとうろう」と決めて、たくさん努力をしました。

わたしはその姿を見て「はっ」としました。わたしも人によって態度を変えている。この主人公と同じことをしてしまっている気がしました。今までわたしは、傷ついている人の立場になり、その人の気持ちを考えることができていなかったことにも反省しました。

この道德の授業を通して、わたしは自分がこれまで友達にしてしまったことをふり返りました。すると、相手の立場になり、気持ちを考えることの大切さがよく分かりました。そして、わたしも自分を変えるための努力をしようと思いました。

授業の後、姉に弟のことを相談しました。最近、弟に強く当たってしまい、嫌な気持ちをさせてしまうことが多くありました。自分でもやってはいけないと思っても、傷つけてしまうことがありました。姉は、「すべしには直せないかもしれないけれど、少しずつ気持ちを付けてみたら？」とアドバイスをくれました。その言葉を聞き、少しずつ弟の気持ちを考えるようにしようと思いました。そして、行動につなげています。

今のわたしは、授業で学んだことを心のすみこまにしています。この授業や姉のアドバイスのおかげで人の悪口を言っていないです。また、わたしは自分の心を良い心、やさしい心を取りもどせるように、努力しています。相手を傷つけたかなと思ったときには、ちゃんと相手の気持ちを考え、「ごめんね」と謝っています。すると、相手も「いいよ。ごめんね」と言ってくれます。すると、気持ちが晴れて、すっきりしました。わたしは「公正、公平な態度」を日々心がけて生活しています。公正、公平な態度をこころ自分も相手も気持ちよく過ごすことができます。だから、これからも公正、公平な自分を大事にし、友達にも広めていきたいです。

## 編集室から

帰りに「お先に失礼します。」と言ったときに、ある人は必ず仕事の手を止めて、自分の方を向き、「お疲れさまでした。」と言ってくれた。

これは、ある職場での話です。この言葉自体は、どの職場でも行き交っていると思います。挨拶を返した人は、帰る人が自分たちに声を掛けてくれるのだから相手を見て伝えるのが当たり前だと思っただけです。返された相手は、忙しい中で仕事をしているから振り返らなくても何とも思わないが、顔を向けてくれる姿が印象に残ったそうです。二人の行動がもたらしたものは、形にはならない心の充足でした。

当たり前になっていることの中に、相手の姿がなく、形だけになっているものがあるかもしれないと振り返ることができる話ですね。生活の中では、その立場に立つたから分かります。その立場に立つことで、なぜという疑問がわいたり、それは正しいかどうかを考えたたりできるのだと思います。

人と関わる時間が制限される今だからこそ、自分の身の回りの当たり前を見直す機会にしようと思います。なぜ「五つの目標」が大事なのか、相手の立場に立つというのはどういうことなのかを今一度考えようと思う日々です。

(A・O)

**5つの目標** 市民一人ひとりが人権教育の心を育てるために

- 1 気持ちの良いあいさつができる人  
効果 自他のいのちを尊重する気持ちが生まれ、明るく前向きな気持ちになります。
- 2 はきものを脱いだらそろえる人  
効果 行動をふり返り、自分を大切にすることが育ちます。
- 3 人に呼ばれたら「はい」と気持ちのよい返事ができる人  
効果 素直な気持ちになり、快い人間関係が生まれます。
- 4 人の話が聴ける人  
効果 相手を受け入れようとする広い人間性が育ちます。
- 5 自分の意見を相手に伝えることのできる人  
効果 自分を聞き、お互いの人間関係が深まります。

四国中央市 四国中央市人権教育協議会